

2025年度東京藝術大学大学院
音楽研究科（修士課程）入学試験問題
出題意図等

器楽専攻古楽（専攻実技）

- ・「出題意図等」とは、出題意図あるいは標準的な解答例のことです。
- ・「出題意図等」についての問い合わせには対応いたしません。

「器楽専攻古楽」専攻実技 【出題意図】

《演奏試験》

- 1) 各時代や地域、あるいは作曲家個人それぞれの様式および美学を尊重し、その理解を、演奏を通じて的確に表現するための技術を備えているかどうか、また本学で学ぶにふさわしい創造性を持っているかどうか。
- 2) 自らの演奏する楽器の特徴および性能をよく理解し、無理のない合理的な奏法を身につけているかどうか、また良く音を聴きつつ演奏することができるかどうか。
- 3) 楽譜を適切に読み取りつつ、それを自発的な表現に結びつける力があるか。以上1)～3)を確認するものである。

《通奏低音》

17～18世紀の作品理解の根幹をなす「通奏低音＝数字付き低音」の基礎を理解しているかどうか、特に平易な調のカデンツを瞬時に正しく把握し、鍵盤上で演奏する力があるかどうかを重視している。

《アンサンブル課題》

小編成のアンサンブル作品における通奏低音パートを、短い予見時間で演奏する能力を持っているか、また、アンサンブル中に相手のパートを聴き取る力を持っているか、を確認するものである。